

平成 2 6 年度柏原市立歴史資料館等運営協議会

会 議 録

日 時	平成 2 6 年 5 月 2 2 日 (木)
	午後 1 時 5 5 分～4 時 1 0 分
場 所	柏原市立歴史資料館研修室

会議出席者

委員

塚口義信（会長）、蓑原 正（副会長）、木下百合子、綿貫友子

荻田耕司、中野 武、藤井 勇

（欠席・梶川哲郎、代理出席・大阪府立柏原東高等学校横山教頭）

事務局

林 和彦（生涯学習部長）、宮本知幸（生涯学習部次長兼文化財

課長）、桑野一幸（文化財課参事兼課長補佐）、安村俊史（文化

財課主幹兼歴史資料館館長）、山根航（文化財課係員）

記録：安村俊史

1. 開会（13 時 55 分）

進行・安村

2. 林生涯学習部長あいさつ

3. 委嘱状交付・委員紹介

4. 事務局紹介

5. 議事

①会長・副会長選出

立候補なく、事務局一任の声があり、事務局案を提示。委員全員の承認により、会長に塚口委員、副会長に蓑原委員を選出。

〔塚口会長による議事進行〕

②平成 25 年度事業報告

（1）歴史資料館関係 安村

（2）横穴管理運営関係 桑野
別添資料

【質疑】

○企画展の評価

委員：当館の企画展は、いつも良い展示をしている。今回の武田慎治郎展も、武田塾を知るものにとって、非常にありがたい展示である。

○万葉集を取り上げた効果について

委員：「河内大橋」の展示及びそれに関連した市民歴史大学などで万葉集を取り上げることによって、新たな来館者の開拓や増加はみられたか。

事務局：入館者数に反映するほどの効果はみられなかったが、万葉集に関心のある方で、初めて来館していただいた人も多かった。これが、今後の当館の活動や入館者数に生きてくると考えている。

○企画展の開催について

委員：各地の博物館を訪れるが、当館は常設展の展示替え、企画展の開催など予算をかけずに意欲的な展示をしていて、印象に残る。がんばっているのがよくわかる。

委員：秋・冬の展示は、計画的に実施してもらっており、学校として非常にありがたい。今後も学校と連携して続けていただきたい。また、夏季企画展は、研究成果にもとづく新説を取り入れた展示で、非常に意義ある展示であったと思う。

委員：夏季企画展の反響はどうか？

事務局：夏季企画展では、50 年近く続く通説を批判し、発掘調査成果や古代寺院の位置などに基づいて新説を唱え、それに基づく展示を実施した。当館は小規模館であり、自由がきくという利点もあるためにこのような展示ができたと考えている。講演などの反響も大きい。今後も新しい研究成果を、展示・講演などを通じて、市民に紹介していきたいと考えている。

委員：推古の大道は、1,400 周年ということで新聞などでもとりあげられたが、いずれも竹内街道をテーマにしていた。そのなかで、当館の企画展は意味があり、高い評価を与える人もあった。この展示は大きく評価して良い。

○市民歴史クラブについて

委員：市民歴史クラブが活発に活動しているようだが、資料館との関係や設立経緯、活動の実態について説明してほしい。

事務局：10 年ほど前に、ボランティアの養成を検討するようにと指示があったが、ボランティアではなく、歴史好きの市民を集めてサークルをつくることにして、広報紙などで募集をした。当館を基点として活動するが、あくまでも自主的に活動する。当館が協力をして歴史を楽しみながら学ぶというスタイルではじまり、市内の古代寺院について勉強することになった。その成果がコンピューターグラフィックスによる伽藍模型の復元などに発展し、それならば展示してみようということになった。そして、次は復元模型を製作、展示したいということになり、今回も武田塾の旧建物の模型、松岳山古墳の墳丘復元というかたちで展示できている。そのような活動を続けるなかで、ボランティアとしても参加してもらえるようになった。

委員：会員は入れ替わりはあるのか。

事務局：若干の入れ替わりはあるが、大きな変化はない。

委員：新しいメンバーが入って、今後も活性化できるといい。

委員：模型はすばらしい。ぜひ、若い人にも参加していただき、継続して活動してもらいたい。

○古文書の整理スタッフについて

委員：当館には大量の古文書が所蔵されており、古文書の整理や入門講座などを行っているようだが、現在スタッフはどうしているのか。今後どうしていくのか。

事務局：現在古文書の専門職員はおいていないが、文化財課としては中近世の専門職員の採用を強く要望している。正職員によって史料整理を進めていくのが原則だと考えている。

委員：柏原市にとって重要な大和川に関連する中家文書が寄贈されたことでもあり、古文書の専門職員の採用は当然のことと考える。ぜひ実現してもらいたい。

○学校教育と当館との関わりについて

委員：柏原市では中高連携が進められており、柏原市の歴史を活かして高校の授業などにも積極的に関わってもらいたい。

委員：かつて、柏原東高校には歴史関係のクラブがあったと聞いているいるが、今もあるのか。あれば、資料館との連携も可能だと思うが。

委員：歴史関係のクラブはない。

事務局：どのように学校と関われるのか、むずかしい面もある。これまでも講演や出前授業などは実施しているが、どのように関わっていけるのか、事務局でも考えてみたい。学校のほうからも要望があれば、教えてほしい。

委員：継続する事業を考えるならば、たとえば1年間のカリキュラムとして柏原の歴史の授業をするというのはどうか。検討していただきたい。

委員：小中一貫教育も進められており、郷土学習などのカリキュラムづくりに関わっているといいのではないか。

委員：勤務する小学校で「柏原学」に取り組んでおり、それを他校にも呼びかけていきたいと考えている。すべて資料館に任せるのではなく、学校教育において資料館とどのように関わっていけるかという姿勢が学校側にも必要ではないか。

事務局：ただ今の提言を受けて、何ができるか、こちらとしても企画案を考えて積極的に進めていきたい。

○柏原の文化財地図の設置について

委員：大坂夏の陣に伴って、玉手の石川付近に文化財の案内地図を設置することは可能か。

委員：5月3日に夏の陣の関連イベントを実施した。今後もさまざまなイベントが計画されている。

委員：資料館の案内看板なども、もう少し整備してもらいたい。

事務局：あまり整備はできていない。また、設置するとしても、土地の問題などさまざまな制約があるため、それらも考慮しながら、少しずつ整備していきたい。

委員：市有地ならば可能ではないか。

事務局：可能である。あとは、予算の問題。

委員：当館は大型バスが入らないという問題点もあるが、これはどうしようもない。

②平成26年度事業計画

(1) 歴史資料館関係 安村

(2) 横穴管理運営関係 桑野
別添資料

【質疑】

○鳥坂寺の史跡整備の進行状況について

委員：鳥坂寺の史跡整備について、状況がまったく伝わってこないが、どうなっているのか。

事務局：現在足踏み状態である。財政上の問題などもあって、来年度以降の課題となる。

○河内国分寺跡の発掘・整備について

委員：河内国分寺跡の調査が中断しているようだが、ぜひ継続してもらいたい。

事務局：継続したいと考えているが、予算、鳥坂寺の整備進行状況などを見ながら考えていきたい。

○秋季企画展について

委員：大和川つけかえの経緯をくわしく伝えようという秋季企画展に期待している。学校現場では、事実を十分伝えないことによって、かえって混乱しているように思える。先生方にも知らない人が多いと思うので、学校の状況を十分に把握したうえで、ぜひがんばってもらいたい。

事務局：中甚兵衛をヒーローにするつけかえ運動の理解は問題だと思っている。つけかえ運動の衰退、結局は幕府の都合でつけかえられたのだということを、いかに小学4年生に伝えるか。むずかしいことだがチャレンジしてみたい。

委員：4年生は郷土学習として大和川のつけかえを取り上げるので、幕府を理解するのは難しいだろう。これについては、6年生の歴史学習の中で扱うことができるのではないか。その活用方法について、提言してもらえるとありがたい。

事務局：大和川付け替え300周年の際につけかえの経緯について、研究が進んだ。しかし、それが十分に学校教育や市民に反映されていない。今年で310年を迎えたこともあり、少しでも真実を伝えていきたいと考えている。6年生の歴史学習への取組みについては考えていなかったなので、今後考えてみたい。

会長：ほかにないようならば、これで終わりたい。本日は、非常に建設的な意見が多数出されたと思う。事務局でも検討を進めてもらいたい。

6. 閉会

(終了16時10分)